

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成25年度 経済産業大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野 受賞	受賞者名
	所在地
	受賞テーマ

昭和電工株式会社
所在地
東京都港区
受賞テーマ
昭和電工グループ 全員参加のアルミ缶リサイクル活動 40 周年

1. 活動継続 あり

- 使用済みアルミ缶の回収、収益金の社会福祉団体等への寄付を継続して実施している。2016 年はグループ 14 事業場が寄付を行った。
- 自治体等地域でのアルミ缶を含めた資源ごみ回収が定着する一方で、町内会や福祉作業所等これまで地域と協力して大量回収していた社員の退職や高齢化等により社員回収量が減少しており、現在の課題となっている。

【各種データ】

昭和電工グループ全体の参加率推移

年	参加率 (%)
2004	65.1
2005	73.8
2006	80.7
2007	86.5
2008	94.1
2009	93.7
2010	93.9
2011	92.3
2012	94.3
2013	96.6
2014	98.3
2015	98.8
2016	98.9

昭和電工グループ全体の回収量の推移

年	回収量 (千缶)
1993	6,500
1994	6,200
1995	6,400
1996	6,500
1997	6,300
1998	6,200
1999	7,200
2000	6,800
2001	8,000
2002	8,200
2003	8,800
2004	9,200
2005	7,500
2006	7,200
2007	7,400
2008	7,100
2009	6,800
2010	6,200
2011	6,000
2012	5,800
2013	5,600
2014	5,400
2015	5,200
2016	4,865

昭和電工グループ全体の寄付金額の累積

年	寄付金額 (円)
1993	100,000
1994	500,000
1995	1,000,000
1996	1,500,000
1997	2,000,000
1998	2,500,000
1999	3,000,000
2000	4,000,000
2001	5,500,000
2002	6,500,000
2003	8,000,000
2004	9,000,000
2005	10,500,000
2006	11,500,000
2007	13,500,000
2008	15,500,000
2009	17,000,000
2010	19,000,000
2011	20,500,000
2012	22,500,000
2013	24,000,000
2014	25,000,000
2015	26,500,000
2016	27,535,871

【収益金の寄付】



会津若松市社会福祉協議会河東支所様へ
高圧洗浄機を贈呈
(2016 年 10 月 東長原事業所)



地域の小学校に書架を贈呈
(2016 年 12 月 昭和電工セラミックス(株)塩尻工場、
昭和ファインセラミックス(株))



大町市社会福祉協議会様へ収益金を寄付
(2017 年 3 月 大町事業所)

2. 活動の広がり あり

関連会社 1 社 (4 拠点) にて新たに活動を開始したほか、地域の団体や場内協力企業にも参加拡大している。

3. 活動の進化 あり

(1) 社内キャンペーン・表彰制度の充実

- 2014 年の活動ポスターは、2013 年に本表彰をいただいたことを大きくアピールしたデザインを採用し、さらなる活動の活性化を図った。グループ内活動参加率はその後 98.9%まで上昇している。

3 R 推進功労者等表彰経済産業大臣賞受賞を
アピールした 2014 年活動ポスター



- 2016 年にはグループ内で活動推進標語を募集し、895 件の応募があった。審査で選ばれた最優秀作品を今年度ポスターに使用している。応募者全員に参加賞のボールペン、優秀作品には副賞を贈呈した。



従業員から募集した標語を使用した 2017 年活動ポスター

- 2016 年、専用の回収袋を作成し、従業員に数枚ずつ配布した（車通勤用の大きいサイズと電車通勤用の小さなサイズの 2 種類）。回収袋の配布は 2017 年も継続して実施している。



オリジナル回収袋

- 社内表彰として、2013 年度活動実績分から、収益金の寄付活動を継続して行っている事業場への表彰（チャリティ賞）、前年を上回る回収実績を上げた事業場への表彰（継続努力賞）を新設した。

（2） 社外広報活動の推進

各事業場、地域の環境イベントや企業紹介イベント等で広報活動を実施している。（年 2 回の港区 3 R イベント、喜多方ものづくり交流フェアへのパネル展示等。オリジナルのアルミ貯金缶等をノベルティとして配布）



写真左：港区「みんなと 3 R パネル展示会」への出展
（2017 年 2 月本社）

写真下：ノベルティのオリジナルアルミ貯金缶



(3) 社外表彰事例

- 2016 年 11 月喜多方事業所

第 12 回喜多方市社会福祉大会にて「社会福祉大会会長感謝賞」の表彰受賞。

<http://www.sdk.co.jp/csr/site/2016/16282.html>



- 2013 年 9 月塩尻事業所

第 45 回塩尻市社会福祉大会にて「社会福祉事業協力者」として表彰受賞。

<http://www.sdk.co.jp/csr/site/2013/13747.html>



4. 今後の計画

- 2017 年には新しくユニークな回収方法に取り組んだ事業場への「アイデア推進賞」、協力いただける外部団体を増やした事業場への「新規開拓賞」の 2 つの表彰を新設した。
- 回収量の減少に歯止めをかける活動に取り組んでいく。

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

国内初のアルミ缶製造企業として、発足した昭和アルミニウム缶株式会社。その操業開始（1971 年）からアルミ缶のリサイクルを続け、昭和電工グループ全体へと広がったアルミ缶リサイクル活動は 2011 年までの 40 年間で実に 335 億缶（＝350ml 缶＝約 50 万トン）。



現在では昭和電工グループ会社 18 社、その全社員 9,003 人（H25 年 3 月末時点）を対象にアルミ缶リサイクル活動目標を掲げ、積極的に回収活動を実施している。

CSR 活動の一環として始めた社内でのアルミ缶リサイクル活動は昭和電工グループとしての意識の一体化を育み、グループの各事業場では近隣住民とともにアルミ缶の回収活動も行い、アルミ缶の売却代金を近くの学校、子供会、自治会、敬老会などに寄付しており、アルミ缶のリサイクル活動を通して地域との共生が図られている。

昭和電工グループのアルミ缶リサイクル活動目標は以下の通り。

- ①全員参加とし、参加率 100% を達成する。
- ②3 ヶ月間に 100 缶/人のアルミ缶回収を達成する。

昭和電工グループのアルミ缶リサイクル活動の歴史

年	できごと
1969 年	昭和アルミニウム缶(株)設立
1971 年	日本で初めてアルミ製ビール缶を製造
1972 年	昭和アルミニウム(株)従業員へアルミ缶のリサイクルを呼びかける
1973 年	昭和アルミニウム缶(株)・初代社長の主導で業界団体・オールアルミニウム缶回収協会（現在のアルミ缶リサイクル協会）が発足
1981 年	昭和アルミニウム(株)の堺（大阪府）・小山（栃木県）の 2 事業所で、近隣ボランティアから使用済みアルミ缶の回収活動をスタート
1990 年	昭和アルミニウム(株)で全社的なアルミ缶リサイクル活動をスタート。社員からの使用済みアルミ缶の有償回収を開始
1991 年	昭和アルミニウム(株)でアルミ缶リサイクル推進協議会が発足、関係会社を含めた企業グループとしてのリサイクル活動がスタート
1995 年	(株)昭和アルミ缶リサイクリングセンターを設立、使用済みアルミ缶を再びアルミ缶用の材料にする体制（Can-to-Can）が整う
2001 年	昭和アルミニウム(株)と昭和電工(株)の合併を機に、旧・昭和電工(株)の事業所・関係会社にもアルミ缶リサイクル活動を拡大
2011 年	アルミ缶リサイクル活動開始から 40 周年を迎える